

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ マネジメント ）	氏名	奥 居 正 樹
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当		
論文題目			
職場内コミュニケーションにおけるプロトコルの研究 —コンテキスト・パターンに着目して—			
論文審査担当者			
主 査	教 授	村 松 潤 一	印
審査委員	教 授	椿 康 和	印
審査委員	教 授	盧 濤	印
〔論文審査の要旨〕			
1. 概要			
業務を職場で円滑に遂行するうえでコミュニケーションが果たす役割とその重要性は、これまでも指摘されてきたが、それがどのような規範に則って交わされているかは、必ずしも明らかではなかった。本論文はこの点に着目し、日本企業の職場におけるマネジャーと協働者との間におけるコミュニケーションの伝え方、特にやりとりにおけるコンテキストへの依存度のパターンに関するプロトコルの実態を理論的・実証的に明らかにしたものである。その際、コミュニケーションが交わされる場の背景に焦点をあてることで、より精緻にプロトコルの研究とその方向性を示した。			
2. 構成と内容			
本論文の構成を概略的に示せば、①本研究の背景、目的、②コミュニケーションの構造及びコミュニケーションと文化に関する先行研究レビュー、③研究フレームワークの構築、④国内における職場のコンテキスト・パターンの結果分析、⑤異なる国文化を背景とする職場の調査結果、⑥考察、⑦インプリケーションと課題、となる。			
コミュニケーションの構造に関するレビューでは、コミュニケーションに関する研究視座とその理論的な背景を確認した後で本研究の位置づけが議論された。そしてプロトコルにおけることばとコンテキストの関係に関する研究を検討した結果、コミュニケーションを取り巻く状況や範囲が既存研究では明確に区分されず、その解像度は低いことが指摘された。続くコミュニケーションと文化に関するレビューでは、コミュニケーションは文化によって規定される行動様式の一つであることを確認し、その構造や型の違いについて検討がなされた。ここでは、同じ国の企業でも業種や職種によってコンテキスト・パターンが異なることや、異文化融合においてどちらか一方の国文化をすり合わせの土台として位置づけ、他方がそれに合わせるということが明らかとなった。しかし、どのようなプロセスですり合わせるかという議論は深められていないという課題も指摘された。そこで本論文では、場の背景を特定したうえで研究フレームワークが構築され、同じ国文化を背景とした職場であっても職位や話題とするテーマによって伝			

え方が異なること、異なる文化を背景とする職場では間接部門と直接部門ですり合わせ型が異なること、が事例研究によって明らかにされた。そして、これらの知見によって、これまで暗黙知とされていた職場におけるプロトコルの構造に検討が加えられた。

3. 評価

従来、経営学におけるコミュニケーション研究では、意思疎通が図れることを所与として取り扱い、どのように意思疎通を図るかという点には焦点があてられてこなかった。本論文は、職場という社会組織において、コミュニケーションの操作性について解明を試みたものであり、経営学における先駆的研究として高く評価される。同じ話題でも職位によって、また、同じ職位でも話題に応じてコンテキスト・パターンが異なること、ただし、同じ職種集団であれば一部例外を除いてコンテキスト・パターンは類似することを理論的・実証的に明らかにしたのが本論文であり、それは、職場内コミュニケーションのプロトコルの解像度を高めることに繋がっていく。さらに、現地法人におけるすり合わせ型では、慣行に対する上書き修正を示唆し、意思疎通において効率的な方が採用されることを明らかにした。こうしたプロトコルの研究は、コミュニケーション・マネジメントという新たな研究領域を経営学にもたらすものであり、今後、研究の一層の進展が強く期待されている。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（マネジメント）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。